

オンライン俳句

オンラインといっても、このホームページではなくて、[メロウ倶楽部・趣味の館・「俳壇」](#)会議室なのです 「Online俳壇」では、毎月、月当番を決めて、投句・選句・選句発表・選句感想・作者発表などを楽しんでいます。

初心者も歓迎されています。あなたも一緒に俳句を作ってみませんか？

それでは今月の選句から上位の作品の幾つかをご紹介しますしよう。

6月メロウ句会 幹事 サヨン

豊屋は街に一軒明け易し	安房守
路地裏に一つ吊られし金魚玉	ぴかぴか
すっと出ぬ挨拶言葉木下闇	安房守
幼子の飛び跳ねて来し祭足袋	ぴかぴか
夕焼けて空に含羞残りけり	もくま

落日を海に収めて梅雨に入る	安房守
若葉風修行の僧の声弾む	らめ
銀鱗を跳ねて遡上の若き鮎	サヨン
ネクタイをぐいと緩める日焼の手	すかんぼ
移りゆく季を忘れずに山紫陽花	サヨン
何かありさうで短夜窓開ける	桐子
一斉に無口になりて苺食ふ	燦亭
立ち寄りし友と語らう新茶かな	ゆめ
天と地を架ける泰山木の花	ぴかぴか
旧友の愚痴果てもなく冷菓溶け	宇宙人
手足腰伸ばして曲げて風薫る	すかんぼ
万緑や富士に向ひて峠越え	健太

回復を祈り故郷のさくらんぼ	小歩
風鈴の音も怪しげ雨催ひ	すかんぼ
半夏生駆け込み寺の階は急	もくま
退院の願い叶わず梅雨に入る	小歩
雨だれの音の響きや夏間近	らめ
真夏日の午後の喧騒救急車	小歩
走り来し友に取り出す扇子かな	くり南瓜
七変化赤いポストも梅雨に入る	健太
水中花闇にひそかな息もらす	もくま
切りながら次次つまむなすび漬	くり南瓜
山の気を呑み込む初夏の白き雲	サヨン
あめんぼう水輪重ねてまた解いて	もくま

らっきょうを練り味噌で食ふ一人かな 桐子

夏至以降とぼとぼ歩む下り坂 樽

惜しい惜しい冷麺流れ去ってゆく 桐子

わだかまるあのひとことと髪洗う 宇宙人

梅雨空を揺るがす宵の震度四 らめ

筋トレの帰り早苗に夕日落つ ゆめ